

小池としあき市政レポート

令和6年1月15日発行

小池としあき 〒417-0001 富士市今泉 2305-5

TEL：52-5453 FAX：69-1129

ホームページ：https://www.koike473.com/

Email：koike473@ab.thn.ne.jp

正々堂々



議長に就任し半年が過ぎました。「強い議会」を目指し、議会全体で改革に取り組んでいます！！

9月、11月定例議会の議案審査や一般質問等を通じて、今後、市民の皆様にも特に注目いただきたい富士市の取り組みを、3つに絞ってご紹介します。

(補正予算)物価高騰による総合体育館建設事業を始めとする大型公共事業及び市財政への影響は？

建設中の富士市総合体育館（場所：旧富士ハイツ跡地）は、ウクライナ侵攻等の影響による資材・原材料費の高騰、労務費の上昇により、事業者である「みんなのふじ株」から工事費の不足を提起されました。

市はプロポーザル方式で提案書類を受け取った令和3年9月から令和5年4月までの物価高騰の動向を確認し、両者協議の結果インフレスライドを適用し、基準日である令和5年4月末の残工事金額、約60億円に対し上昇率20.3%＝約12億円の追加金額を支出する補正予算案を11月議会に提出しました。

議会では本会議及び総務市民委員会で審議がなされ、(議員)「今回の補正は5年4月までの上昇を認めるものだが、7年度の供用開始までに更に物価高騰が進んだ場合には、今回と同じような事業費の追加が発生するのか」

(市当局)「物価高騰の動向が現段階では見通せないため、追加がないとは言い切れない」

(議員)「多くの地元企業が下請けとして関わっているため、今回の追加分が下請け企業にもしっかり渡るようにすべき」

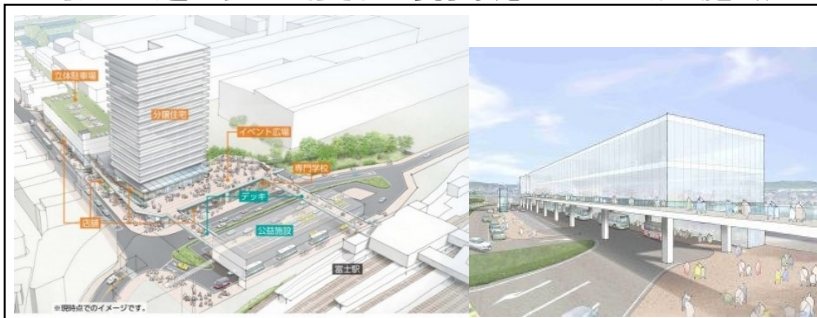
(市当局)「下請企業への対応は代表企業のトップに対し直接申入れを行っていく」等の質疑の上、補正予算を可決しました。

今後も富士駅北口周辺整備事業（組合再開発ビル、駅に隣接する公益施設）、新病院建設事業等の大型事業が予定されていますが、市全体の財政状況を踏まえ、十分な機能を発揮しながらも無駄がない建築・事業とするとともに、投資した税金がしっかりと市内で循環するよう注視していく必要があります。

■建設が進む富士市総合体育館(大淵)

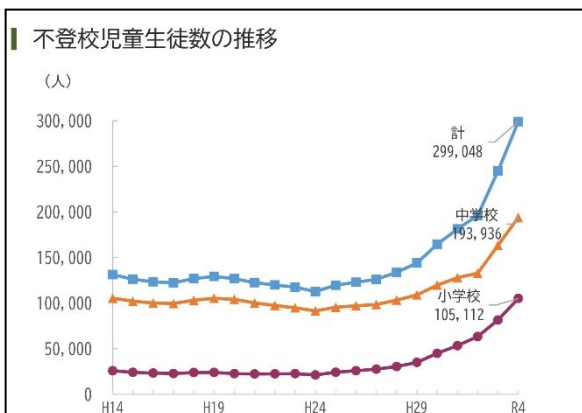


■計画が進む富士駅北口再開発ビルと公益施設

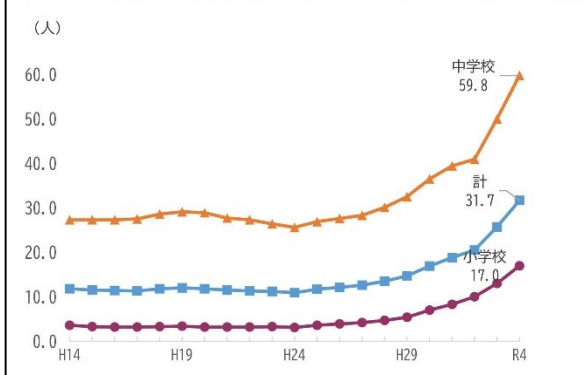


(一般質問)不登校の児童生徒数が近年急増しているが、彼等の支援にどう取り組むか？

■全国の不登校児童生徒数の推移



■不登校児童生徒数の推移(1,000人当たり不登校児童生徒数)



■富士市の不登校児童生徒数の推移

年度	人数(人)	対平成28年度比
平成28年度	330	1.00
29年度	398	1.21
30年度	463	1.40
令和元年度	514	1.58
2年度	485	1.47
3年度	555	1.68
4年度	658	1.99

その上で市では学校以外にステップスクール・ふじ（約90人が利用）や適応支援教室アルファ（約50人が利用）と連携し学びの機会を確保している。また継続的に家庭訪問を行い、児童生徒とのつながりを確保するようにしている

(議員)「忙しい教員が、不登校の児童生徒全員に寄り添う形で支援するのは不可能。支援を受けていない400～500人のためにも民間のフリースクールや不登校の子どもたちを支援するNPO等の力を導入し、より積極的に支援すべき」

(議員)「不登校児童生徒のためのオンライン支援プログラムが散見されるようになりつつある。対面は難しいがオンライン上の仮想空間ならば参加のハードルも下がるので、導入を考えるべき」等の提案があり、教育委員会としては研究を進めていくとの答弁でした。

一方で、不登校の要因の上位は、本人の「無気力・不安」、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」、学校での「友人関係」、家庭での「親子の関わり方」等、さまざまですが、これら「入口」の改善をどう進めるかも支援の大きな課題です。

不登校の児童生徒数は、国及び富士市ともに平成28年と比較すると、この6年間で倍増しています。

富士市の4年度の不登校658人は、中規模小学校の生徒数1校分に当たります。

(教育長)「不登校は、その要因や背景が多様化・複雑化しており、環境によって誰にでも起こり得るものであり『無理に登校させることだけが正解ではない』という考え方の下、児童生徒一人ひとりの状況に応じた多様な学び方や学びの場が認められ、選択できることが重要。